

◎ 『単元終末の授業を仕組む上でのポイント』

- ① 魅力的な言語活動の設定 ② 「活動Ⅰ→中間交流→活動Ⅱ」の流れ ③ 「言語面」と「内容面」からの振り返り

1 言語活動の提示 ◎生徒が主体的に取り組むことができる言語活動を設定する。

【ポイント】

- ※言語活動の設定は、その活動を行う目的や場面、状況をはっきりさせることが大切です。
- ※「たくさんの外国人観光客に来てもらうために、日本を初めて訪れる外国人向けにお勧めの場所を紹介しよう。」など、『生徒が英語を使って達成すべき課題（タスク）』を言語活動として設定すると、主体的に取り組みやすくなります。

2 活動Ⅰ ◎思いきって、まずは活動をやらせてみる。

【ポイント】

- ※言語活動を行う前に、使わせたい言語材料を機械的に練習させるのではなく、まずは活動を思いきってやらせてみる。つまり、言語活動を行いながら、習得をさせるという意識が大切です。

3 中間交流 ◎課題を達成させるために、指導を行う時間（中間交流）を位置付け

【ポイント】

- ※生徒のよい姿を紹介し、課題達成に向けての方向性を確認します。
- ※課題を達成させるために、生徒の学習状況に応じて、『『定着』が不十分な言語材料』や『身に付けさせたい態度や技能』を指導する時間にします。
- ※「こんなことを言いたかったけれど、英語で言えなかったこと」の解決策を共有する時間にします。
- ※生徒の発話から（共通する）「誤り」を取り上げ、正確さを指導する時間にします。

4 活動Ⅱ ◎「中間交流」で指導したことを活かして、活動を行わせる。

【ポイント】

- ※生徒の言語活動を観察したり、教師も生徒と一緒に言語活動を行ったりすることで、「中間交流」で指導したことができているかを見届けます。
- ※生徒の学習状況により、中間交流で指導したことについて、必要に応じて、個に応じた指導・援助や再度全体指導を行います。

5 振り返り ◎「言語面」と「内容面」で振り返りを行わせる。

【ポイント】

- ※「発話したことの書きまとめ」（言語面）と「伝えられたことや分かったこと」など（内容面）について振り返りをさせます。
- ※次時に『町PRパンフレット』として書きまとめるなど、複数領域にまたがる統合的な活動を工夫することも効果的です。

「外国語科」の授業を振り返ってみよう！（当てはまるものに☑）

- 授業を原則として英語を使って授業を行っていますか。
- 目的や場面、状況に応じて自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を設定していますか。
- 授業の半分以上の時間、生徒は言語活動（伝え合う活動）を行っていますか。
- 授業のねらいに応じて、「活動が先、指導は後」という意識をもって授業を行っていますか。
- 中間交流では、課題達成のための方向性を確認し、「言いたかったけど、言えなかったこと」を既習表現を用いて表現する指導を行っていますか。
- 授業のねらいに応じて、「言語面」と「内容面」の振り返りを行っていますか。
- 発話や筆記の「正確さ」を身に付けさせることができる指導を行っていますか。